

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第38回日本分子生物学会・第88回日本生化学会（BMB2015）
演題名	胎生期バルプロ酸曝露による発達障害モデルマウスにおけるケモカインCCL5の発現亢進
発表者	○ <u>村上浩子</u> 、 <u>和賀央子</u> 、 <u>茂木悠</u> ※、 <u>鳩山拓史</u> ※、 <u>瀧口皓大</u> ※、 <u>関健太</u> ※、 <u>池田和隆</u> 、 <u>内野茂夫</u> （神経生物学研究室）
内容	2015年12月に神戸ポートアイランドで行われた上記学会にて、内野研究室の村上研究員が上記演題についてポスター発表を行った。本研究では、胎生期に神経発達毒であるバルプロ酸を曝露した発達障害病態モデルマウスにおいて、生後発達期における協調運動、情動、社会性に関する行動試験を行うとともに、発達過程の脳（大脳皮質、海馬、小脳）におけるケモカインCCL5（rantes）の発現を定量PCRで解析した。特に、定量PCRは平成26年度の卒研生が中心に行った研究成果である。
関連画像	